

## 文化部活動の地域移行モデル案の方向性

### 1. モデル作成の方針案

#### (1) モデル作成の目的

教育委員会（自治体芸術振興担当部署含む）及び学校長向けに、地域で部活動に代わり得る質の高い活動の機会を確保できるよう、課題や仕組み、手法について取りまとめる。

#### (2) モデルに盛り込む内容

自治体の規模ごとの今後の文化部活動の在り方、地域移行に係る課題、仕組み、手法に係るモデルを作成する。なお、モデルには以下の論点を盛り込む。

表 1 文化部活動及び文化部活動の地域移行に係る現状・課題からの論点

課題、現状	モデルに盛り込むべき論点
長時間の活動、週休日の活動による部活動への過度の傾注	いわゆる裏部活の現状への対応
	効果的・効率的な指導方法
教員の部活動指導負担（教員の働き方改革）	一定規模の地域単位で部活動運営を支える体制構築
	学校外部との連携パターンの在り方
学校施設・設備の適切な利活用、学校安全	学校外部との連携方策
	学校安全に係る対応方策、責任体制
活動費用	学校、家庭、運営主体の経費負担についての考え方の整理
	追加経費発生が引き起こす可能性のある格差を是正する方策
	運営主体の活動経費確保の方策
指導者確保（指導者の水準の確保含む）	学校外部での指導者確保及び指導者育成
部活動の意義の確保	教育課程との連携の在り方（学校教育としての部活動の在り方等）
	地域移行後の文化部活動の質の水準確保
多様な生徒のニーズへの応答	生徒の自発的な活動へ対応するための活動スキームの在り方
	小規模な部活動の水準確保

### (3) モデル作成時の留意点

モデル作成時には、以下の点に留意する。

- 部活動の種類（※）のバランス
  - ✓ 部活動の種類により、教員及び生徒の負担が異なるため、地域移行に係る負担軽減の度合いや方法についても配慮して取りまとめる。
- ※部活動の種類例
  - 活動の強度が高く、全国的コンクール等への参加・競争によって練習が過熱しやすい部活動（例：吹奏楽、合唱）
  - 多くの学校で実施されており、全国的なコンクール等もあるが、練習が生徒の自主性に任せられる等の理由からそれほど教員及び生徒側への負担が高くない場合が多い部活動（例：美術、パソコン）
  - その部活動を設定している学校が比較的少なく、指導に高度な能力・スキルが必要となるが、指導者が少ない、部活動所属生徒数が少ない等の理由から、活動の水準を確保するのが難しい部活動（例：伝統芸能）
- 地域（都市部、地方部、町村・へき地等）のバランス
  - ✓ なお、学校の教育資源（教員数含む）が比較的乏しく、学校外の文化・社会資本（文化施設、文化団体等含む）が豊富ではないへき地におけるモデル構築には十分配慮すること  
例：ICTを活用した指導モデル、他の地域の文化団体を定期的に招聘するモデル等
- 学校外の運営主体（※）のバランス
  - ✓ 運営主体により、教育課程との連携方策、活動経費の在り方が異なることが想定されるため、その違いにも着目して取りまとめる。
  - ✓ なお、学校間連携の取組・工夫があれば、モデルに盛り込む。
- ※学校外の運営主体例
  - 学校の文化部活動の環境を利用し、保護者や地域が運営主体となっている
  - 文化団体が運営主体となり、公共の文化施設などを活用している
  - 総合型地域スポーツクラブ、カルチャーセンター等が運営主体となっている
  - 芸術系大学、教員養成大学が運営主体となっている
  - 民間事業者に全部又は一部を委託している
- 文化部活動の在り方に関する総合的なガイドラインにおける5項目（※）に対応する工夫・取組を含むこと
  - ※「適切な運営のための体制整備」「合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組」「適切な休養日等の設定」「生徒のニーズを踏まえた環境の整備」「学校単位で参加する大会等の見直し」
- 活動経費の負担形態、持続可能な活動経費の在り方、格差是正の工夫や取組に配慮すること
- 移手段の確保、持続可能な活動形態等に配慮すること

モデル構築の際に、注意すべき論点（仮説）

論点	検討内容	論点	検討内容	論点	検討内容
部活動による違い	<p>以下を区別して論じるべきではないか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長時間の練習が常態化しやすい部活動／そうではない部活動</li> <li>活動人数の多寡や使用する道具等による、場所が大きな課題となる部活／そうではない部活</li> <li>活動経費が高額になりがちな部活動／そうではない部活動</li> </ul>	地域の属性による違い	<p>以下を区別して論じるべきではないか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治体規模により、域内の文化資源に相当の差がある（大都市は比較的資源豊富だが、町村・へき地はそうではない）</li> <li>大都市は活動場所に課題／町村・へき地は指導者、小規模部活動、旅費に課題（比較的町村・へき地の課題が深刻）</li> </ul>	運営主体による違い	<p>以下を区別して論じるべきではないか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校連携がしやすい運営主体／そうではない運営主体（文化団体は包括契約が結びやすいが、地域サークル等はそうではない 等）</li> <li>部活動の意義や水準の確保ができる運営主体／そうではない運営主体</li> <li>地域移行した部活動経費を賄うことができる運営主体／そうではない運営主体</li> </ul>

モデル構築の観点

- 部活動による課題（活動量の多寡等）の違いを考慮
- 地域移行による教員の業務軽減の度合いを整理
- 自治体内の文化資源に着目し、地域別にモデルを提示  
（特に町村・へき地は課題が深刻な場合があるため、町村・へき地に配慮したモデル構築が必要）
- 運営主体別に学校との連携形態を整理
- 地域別の課題に配慮し、モデル構築の際に整理
- 地域移行に伴う部活動の意義の確保
- 地域移行形態による経費や移動の課題を整理  
（教員・生徒の負担、運営主体の経費確保方策等）

図 1 モデル構築の際に注意すべき論点とモデル構築の観点

(4) 作成方法

文化部活動の地域移行に係る事例の収集・調査研究を通じて作成する。具体的には、基礎調査（団体プレヒアリング、教育委員会・自治体アンケート）、及び、事例の収集・ヒアリングに基づく。

(5) 作成スケジュール

- 中間報告時点において、事前ヒアリング及びヒアリングに基づいてモデル案概要を策定
  - 特に、地域移行モデルを全国展開していく際に盛り込むべき論点（地域、運営主体、実証形態、実証における検証事項、実証事業評価方法等）を優先的に重視
- 検討会議最終報告取りまとめ時点において、教育委員会及び自治体アンケートの結果も含めて、モデルを確定

## 2. モデル案

モデルは「モデルの基本事項・概要」と「課題への対応」の2部構成で作成する。

### (1) 基本事項・概要

当該モデルについての基本的な事項を説明し、その概要や特徴を理解できるようにする。記載項目は以下を想定。

記載項目	記載内容例			
概要	支援の基本的なスキームや準備のフロー等を簡潔に説明 (図表を含む)			
運営主体（自治体内の文化資源を活用したものであれば、活用資源についての記載を含む）	保護者や地域／文化団体／総合型地域スポーツクラブ、カルチャーセンター／芸術系大学、教員養成大学等／民間事業者等			
適用しやすい自治体類型	大都市	政令市	中核市・その他の市	町村・へき地
学校との連携方式・形態等	任意団体等が学校と契約／法人格を持つ文化団体、社団・財団、NPO 法人、大学法人・学校法人、民間企業等が学校と契約／個人と講師契約を締結 等			
部活動の種類（参加可能な生徒数・部活動数含む）	部活動名を記載（実際の事例だけではなく、可能性のある部活動も記載していく）			
指導者（指導者の水準確保、育成方策含む）	団体に所属している指導者／地域で教室を開業している専門家／地域の当該活動の愛好者／大学等の教員や学生／当該法人が雇用契約を締結している講師 等 研修等の取組も記載			
活動経費の在り方	教委・学校側の経費、生徒（家庭）の経費、運営主体の経費等の観点から記載			
メリット（教員の負担軽減、生徒の多様なニーズへの対応等）	教員の負担軽減、生徒の多様なニーズへの対応等の観点から記載			
デメリット	各モデルのデメリットを明記			
指導上の工夫（休養日等の設定、大会等の見直し等の取組含む）	幅広く指導上の工夫を記載			
その他概要	上記項目には当てはまらないが、そのモデルのポイントとなる取組や工夫等を記載			

### (2) 課題への対応

当該モデルが特に優れている事項（文化部活動の課題・現状に対して、解決・解消可能な事項）を取り上げ、詳細にポイントを取りまとめる。課題リストは表 1 を想定。

## 3. モデル作成例（別紙参照）

(以上)